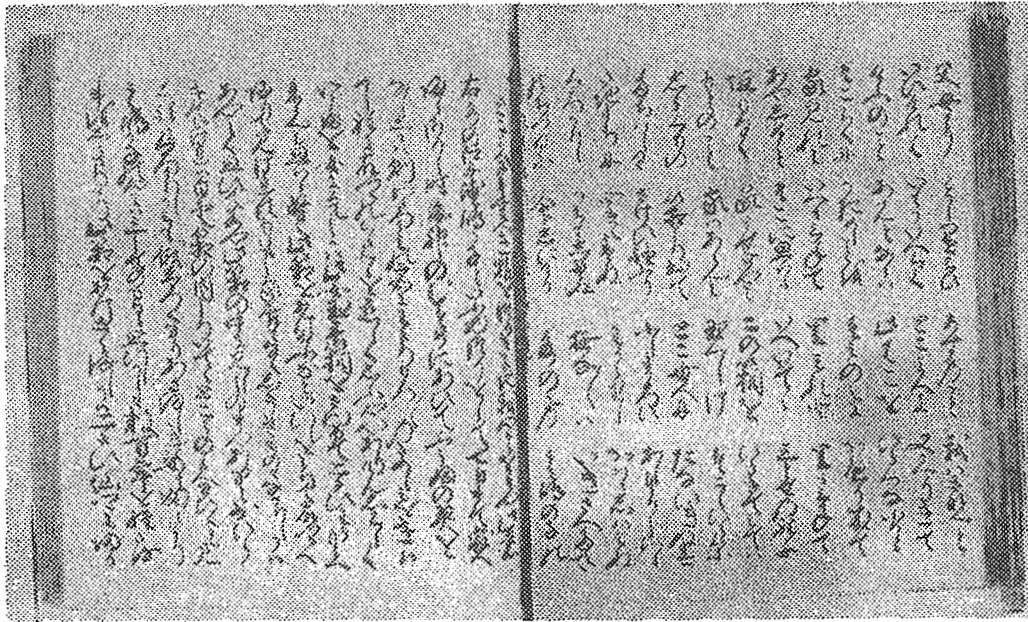


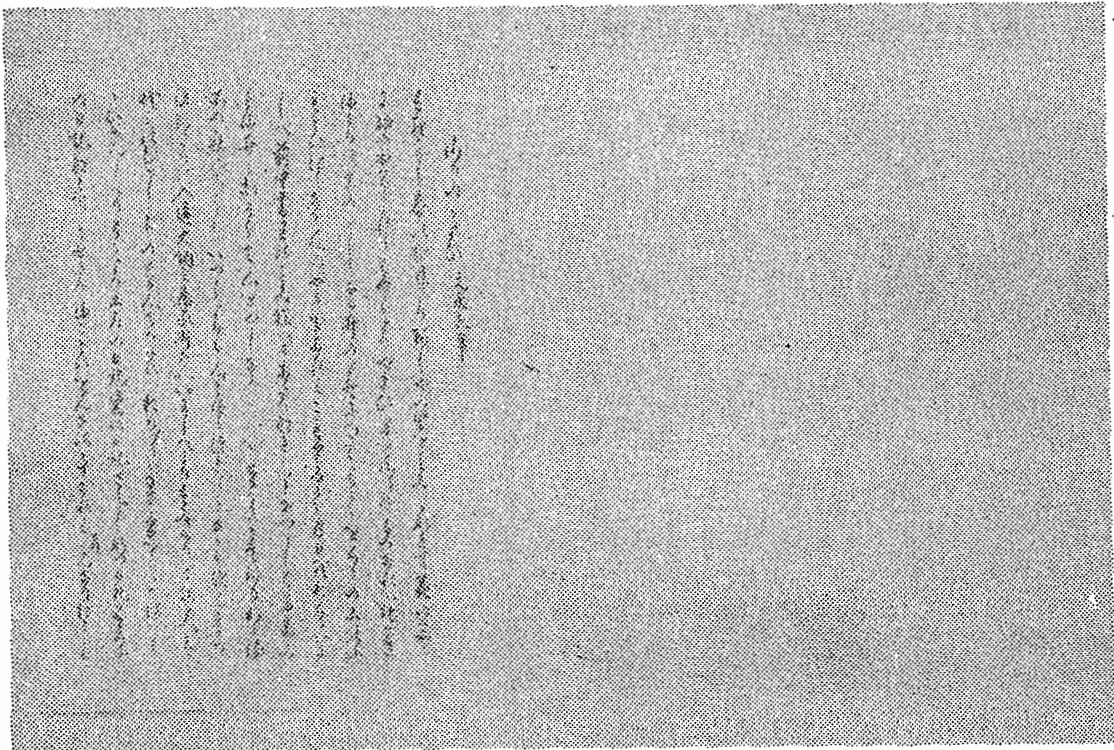
第15回特別展示

新収資料展

— 昭和57～59年度期 —



3 歌林良材集・竹園抄 (P.1)



4 嵯峨のかよひ路 (P.2)

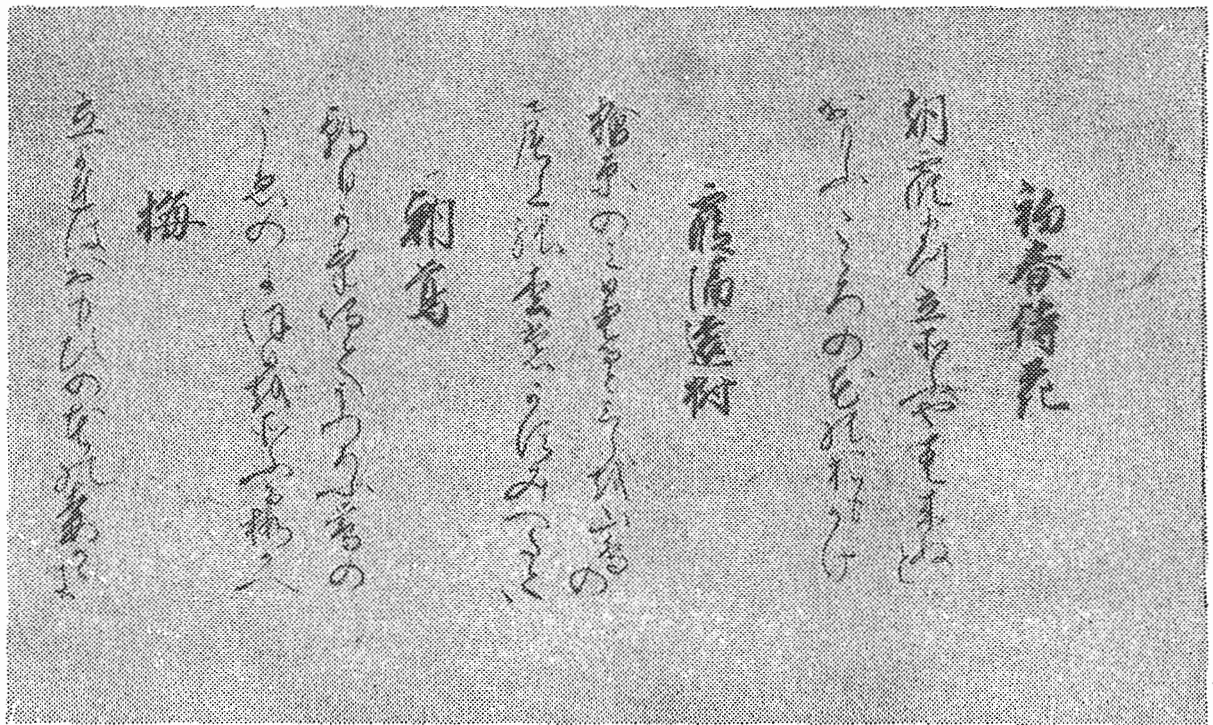


6 古今集注 (P.3)

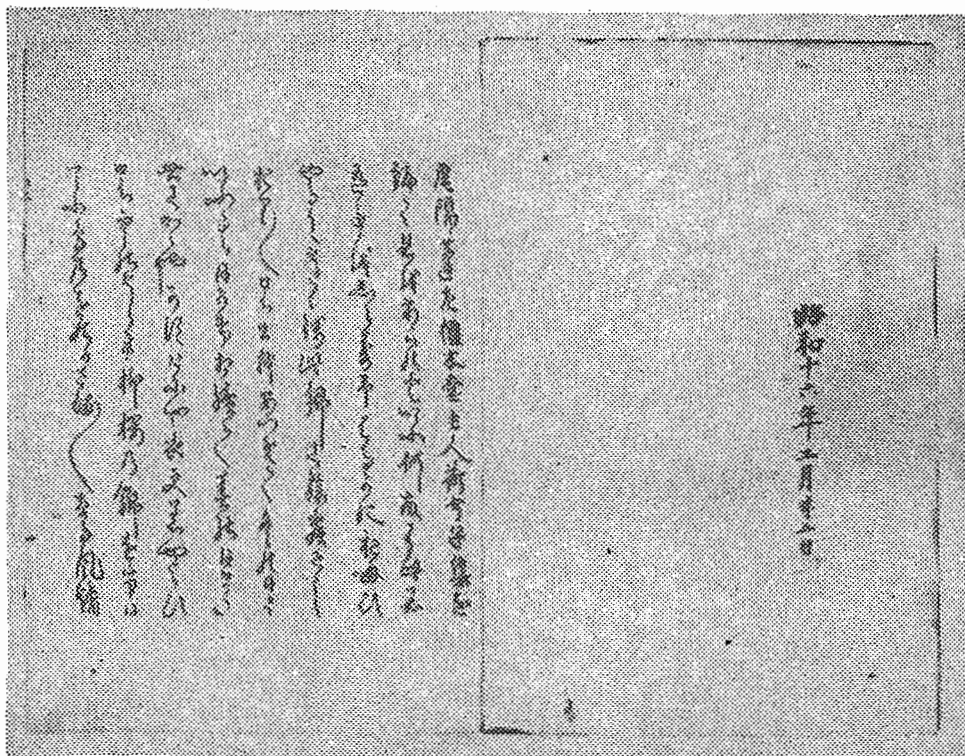


8 内裏名所百首 (P.4)

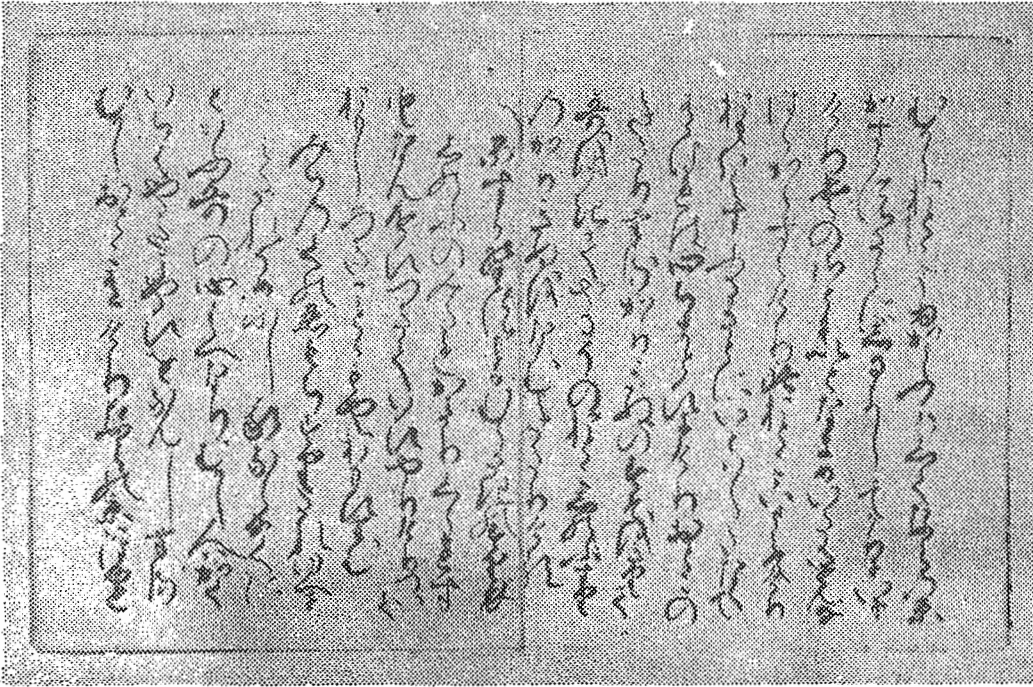




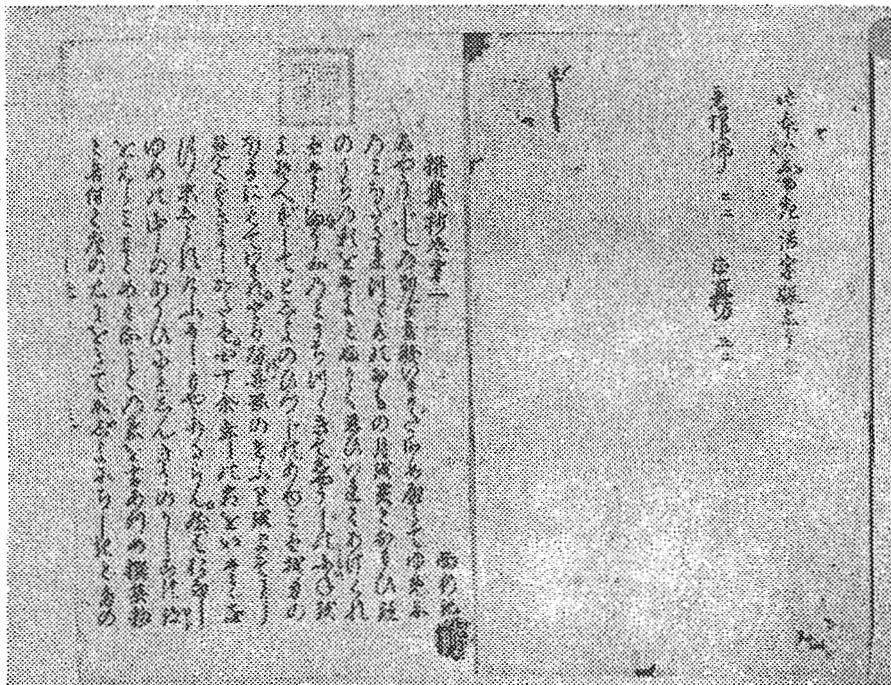
10 勅点和歌 (P.5)



15 阿羅野 (P.8)



19 伊勢物語 (P.9)



23 撰集抄 (P.11)

## はしがき

国文学研究資料館では、江戸時代以前の国文学を中心とする古典文献資料のマイクロ資料収集（フィルム撮影による複製収集）を続けるかたわら、可能な範囲内で古典籍原本（写本・版本）の収集にも努め、併せて利用に供します。

また、それら古典籍原本の研究と普及を目的として、常設展示（年四回。期間約三ヶ月）と特別展示（年一回。期間約二週間）の開催も回を重ねてまいりました。

今回の特別展示では、昭和57～59年度期に収集した古典籍原本より代表的なものを選び、未紹介資料を中心に展示しました。多くの利用者の研究の進展に寄与するところがあれば幸いです。

昭和六十年十一月一日

国文学研究資料館長 小山 弘 志

## 凡 例

一、この目録は、国文学研究資料館第15回特別展示「新収資料展——昭和57～59年度期——」の展示資料解説目録である。

同展は、昭和六十年十一月一日（金）より十五日（金）までの日曜祝日を除く十二日間、当館展示室において開催するものである。

一、資料は、出展全点計五十五点を収録した。

一、目録の記載は、原則として、次の順序によった。

書名、大きさ（単位はcm——解説文中も同様）、刊写、巻冊数、請求記号。

解説は、初めに、分類、著者名等。次に、表紙・題簽、装訂、料紙、内題、柱刻、丁数・行数・字詰め、奥書・識語、印記。そして、伝本、作品内容その他について記した。

一、解説は参考室が担当した。一々お断わりしなかったが、諸先学の研究に負うところが多く、記して感謝したい。

目次

(図) は図版掲載を示す。

(一) 新指定貴重書	
1 薬師通夜物語 (刊)	1
2 鄒忠介公奏疏 (刊)	1
3 歌林良材集・竹園抄 (写)	(図) 1
4 嵯峨のかよひ路 (享和三年写)	(図) 2
5 雛屋立圃絵入書卷 (写)	2
(二) 一般新収資料	
6 古今集注 (写)	(図) 3
7 袋草紙 (貞享二年刊)	3
8 内裏名所百首 (写)	(図) 4
9 師兼千首 (写)	4
10 勅点和歌 (写)	(図) 5
11 和歌古語深秘抄 (元禄十五年刊)	5
12 吉野一覽記 (写)	6
13 無言抄 (刊)	7
14 寛佐 (写)	7
15 阿羅野 (刊)	(図) 8
16 枯尾花 (刊)	8
17 芭蕉句選 (元文四年刊)	8
18 口合草結 (安永十年刊)	9
19 伊勢物語 (写)	(図) 9
20 栄花物語 (明暦二年刊)	10
21 平家物語 (安永三年写)	10
22 徒然草 (刊)	11
23 撰集抄 (刊)	(図) 11
24 可笑記 (刊)	12
25 可笑記跡追 (刊)	12
26 世間胸算用 (元禄十二年刊)	13
27 商人軍配記 (刊)	13
28 絵本若草山 (延享二年刊)	13
29 続沙石集 (延享一年刊)	14
30 和莊兵衛 (安永三年刊)	14



49	君臣画像 (刊)	21
48	南都名所集 (刊)	21
47	和名集并異名製剂記 (寛文十一年刊)	20
46	鎌倉將軍記 (刊)	20
45	中華若木詩抄 (刊)	20
44	狂雲集 (寛永十九年刊)	19
43	下学集 (元和三年刊)	19
42	倭玉篇 (寛永九年刊)	19
41	浄土三部経音義 (刊)	18
40	往生要集鈔 (寛永三年刊)	18
39	仏説象頭精舎経 (刊)	17
38	大般若波羅蜜多経 (刊)	17
37	動雅高麗責 (刊)	17
36	地藏之御本地 (刊)	16
35	太鼓頭附謡 (貞享四年刊)	16
34	仕舞付百番 七太夫流 (万治一年刊)	15
33	能の本 (写)	15
32	通小町 (寛永五年写)	15
31	蟬丸 (刊)	14

		(三) 新規寄託資料 (武者小路実光氏寄託資料)
50	柿本人麻呂像 (写)	22
51	柿本人麻呂像 (写)	22
52	新六歌仙図 (写)	22
53	武者小路実陰懷紙 (写)	23
54	武者小路実陰懷紙 (写)	23
55	武者小路実陰懷紙 (写)	23

(一) 新指定貴重書

1 薬師通夜物語 縦二五・九×横一七・〇 刊一冊

99 58

仮名草子。紺表紙。題簽左肩子持杵「薬師通夜物語」。内題なし。尾題なし。柱刻は丁附のみ。丁数二三丁。片面一〇行。一行一八字前後。字高約一九・〇。印記「栄郭斎蔵」。改題本に「福斎物語」があり『国書総目録』の「福斎物語」の別称に「寛永飢饉鼠物語」「鼠物語」を掲げる。「福斎物語」は江戸の書籍目録に見えることから江戸版の書名と考えられており、卷末の「寛永二十年二月日 大黒判」も刊記ではないとの指摘がある。

2 鄒忠介公奏疏 縦二六・三×横一七・二 刊三冊

99 59

漢籍。茶色表紙(改装)。明の鄒元標著。目録題「鄒忠介公奏疏目錄(終)」。内題「鄒忠介公奏疏卷之一(五)」。尾題「鄒忠介公奏疏卷之一(三・五終)」。「卷之四終」。柱刻「鄒忠介公奏疏卷一(五)丁附」。匡郭四周单边。縦一八・九×横一三・六。本文有界九行。一行一八字。丁数 卷一、一一四丁(序、目錄等四九丁を含む)、卷二、五七丁、卷三、七二丁、卷四、五一丁、卷五、七〇丁(卷二と三、卷四と五が合冊)。印記「佐伯文庫」(豊後国佐伯藩第八代藩主毛利高標の創設した文庫。高標は宝暦五年(一七五五)生れ、享和五年(一八〇一)没)。崇禎辛巳(一六四一年) 錢謙益等の序を付す。

3 歌林良材集・竹園抄 縦二六・五×横二一・八 写一冊

99 60

和歌。一条兼良著。打曇りに横刷毛目表紙(後補)。袋綴。題簽左肩、打曇り料紙(縦一六・五×横八・九)に

「歌林良材／竹園抄」と墨書（竹園抄と合冊）。はじめにもとの表紙（本文と同じ楮紙）があり、中央に「歌林良材集全」と墨書する。内題「歌林良材集卷上（下）」。尾題「歌林良材集卷之上」。丁数、上卷二九丁、下卷三一丁（本文の後の「古来風躰云……粗加一見了大概無相違歟」の一丁分を含む）。片面一三行。一行二二字前後。上卷末に「此本于時明應四乙卯霜月日播州正源法師／写之書云々一条殿前禅閣様之御自筆之／御本申出校合了撰作同禅閣様後／成恩寺関白大政大臣兼良公」とある。全卷にわたって裏打ちを施す。群書類従本と比較すると「浦島か子の筐事」に相異があるが、これはむしろ類従本の方が特殊らしく、寛永二十年版とは相異をみせない。下卷末「かたまけぬ」の項（類従本、寛永版アリ、本書ナシ）、「うけらか花」「そか菊の事」（類従本、本書アリ、寛永版ナシ）など多少の相異はあるが、全体的には大きな違いはないようである。

4 嵯峨のかよひ路 縦二九・二×横二〇・八 写一冊

99 61

日記。飛鳥井雅有著。打曇り様に茶の格子縞表紙。内題「さかのかよひ」の下に右に寄せて「文永六年」と小書きする。遊び紙一丁、墨付一六丁の中、本文は一五丁分。片面二二行、一行二六字前後。卷末に「嵯峨のかよひ先祖雅有記任御契約令書写之／進于黄門時章卿畢／享和三年中夏／民部卿藤雅威」とある。朱による書き入れ（「為家卿」「阿仏房」「隣女集」等）のうち最も長いものは本文の最終丁の欄外に「弘安三年十月／具頭朝臣記／いまの世には／三のくらゐ／藤原雅有／なむ源氏の／ひしりなり／けに是は君も臣もみなゆるせるなるへし」とあるもの。

5 雛屋立圃絵入書巻 縦二八・〇×全長三八三・五 写一軸

99 62

雛屋立圃著（自筆）。牡丹唐草模様の金襴表紙。俳文七、和歌三首を連ねた小品であるが、絵師としても著名な立圃の絵三点が見所。俳文のうち五つは、『六日の菖蒲』（国会図書館蔵）に収められるものと一致するが、

門松や千載集のわかみとり（「歳旦」の条）

なりふりやほそりすはえの梅の花（「横川の麓なる」の条）

髪と腰心は見えぬ柳かな（同）

など、同書未載の句も散見される（ちなみに「門松や」の句は明暦元年歳旦）。和歌三首は立圃和歌として珍重されるべきもの。おそらくは、巷間に伝わる多くの立圃作品と同じく、諸家の需めに応じ気楽に筆をとったものであろう。

## (二) 一般新収資料

6 古今集注 縦二三・九×横一八・一 写一冊

サ2  
20

注釈書。薄茶地に打曇り表紙。装訂は袋綴じ、料紙楮紙、見返し本文共紙。全八四丁、墨付八四丁、遊紙なし。

外題、内題ともになく、冒頭（1ウ）に「古今和詞集卷第十六」とあるが、卷末（84ウ）に、「此集談議事去寶徳

二天秋依花頂殿様之御鏡望冷泉持為殿舌所也仍而其序／北野法浄院之明献同聴（カ）、自明献文明九年／春愚老（墨滅）宗雅

傳之訖／文明九年 三月日」の奥書（本奥書）を持つところから、古今集注釈書の一つ「冷泉持為注」と知られる。

卷十六哀傷から始まるので、本来四冊本もしくは五冊本としてまとまっていたものうちの、最終冊にあたる端本である。室町末期写か。

7 袋草紙 縦二六・九×横一七・九 刊四冊

サ2  
6

歌学書。藤原清輔著。褐色表紙。題簽左肩、子持ち枠内に「清輔袋草紙（一）（四）」。



題「袋草紙卷一（〜四）」。柱刻「袋目録（丁附）」「袋卷一（〜四）（丁附）」。匡郭四周单边。縦一九・四×横一三・五。丁数 卷一、三五丁、卷二、四四丁、卷三、五三丁、卷四、四一丁。片面九行。一行一八字前後。四卷末に「貞享二年乙丑仲春吉辰 京師小路堀川東江入町 中川茂兵衛／同 弥兵衛」とある。卷二の見返しに「袖中訓蒙図彙」の広告を貼付する。

8 内裏名所百首 縦三〇・七×全長一〇四四・五 写一軸

ヨ194

和歌。鶯茶色の絹表紙。題簽「建保百首和歌」。見返しは雲母引きの上に金箔。本文料紙は打曇りに藍色で下絵を刷った斐紙。裏に雲母を引く。全三〇紙。内題「建保百首和歌／順徳院御製」。『内裏名所百首』（順徳院・僧正行意・藤原定家・同家衡・俊成卿女・兵衛内侍・藤原家隆・同忠定・同知家・同範宗・同行能・同康光の十二名が、それぞれ春二十首、夏十首、秋二十首、冬十首、恋二十首、雑二十首、合計百首の名所題を詠んだもの）の中、順徳院御製のみを集めたもの。この形は『順徳院御集』の中に見られる。『内裏名所百首』は類従本に「建保三年十月廿四日」とあり、『順徳院御集』にも「同（建保三年）十月廿四日各所百首人／＼つかうまつりしとき」とある。

9 師兼千首 縦二三・〇×横一五・七 写一帖

タ254

歌集。薄茶色に水引表紙、表裏ともに表紙中央で別紙を継ぐ。本文料紙は水色地に雲母引きの鳥の子。装訂は、二箇所を黒絹糸で綴じるが、表紙と同色の縫糸を添えるので、本来は綴葉装であったと思われる。料紙一枚を重ねて二折りしたものを二つ合わせ、継目を糊付けして、前後二葉を表紙と張り合わせて、本文共紙の見返しとする。全四二丁、墨付四〇丁、遊紙前後に各一丁。表紙中央に天地金箔押しで「師兼千首悉雜」と記した題簽を付す。

「師兼千首」は、藤原師兼（生没年未詳）が天授二年（一三七六）長慶天皇の命で詠進した題詠千首で、春秋恋雜

各二百首、夏冬各百首を収めるが、本書はこのうちの恋・雑のみを伝える。巻末には諸本が持つ「路篠 江蘆 籬草／簷忍草 岸忘草／此千首題無常五首憚之時／以此五首可待替也」の奥書がある。江戸中期写。

10 勅点和歌 縦一六・七×全長約六六八・五 写一軸

ヨ1 83

和歌。焦茶色地に唐草を織り出した絹表紙。料紙は墨流し模様の入る斐紙。裏は薄く緑を引き金砂子を散らす。全一四紙。和歌二行書き。「初春侍花」「霞隔遠樹」以下「寄国祝」に至る六二の題を掲げ九四首の歌を収める。本文末に「右和歌者細川越中守忠興入道以後 号三斎／同丹後守行孝忠興孫号 号方 泰源院 行孝室／号源立院 此三輩之所詠辱賜／後水尾院御点者也如今行孝息／和泉守有孝相聚為一卷請染予禿／筆固辭不得漫書之応其求耳／元禄十年季秋上浣 黄意光」とある。黄意光とは慶安五年二月二十六日に生れ宝永四年七月十七日に没し、元禄十年には権中納言従二位であった藤原意光であろう。意光四十六才の時。

11 和歌古語深秘抄 縦二二・六×横一六・二 刊十冊

ナ2 208

和歌。 惠藤一雄編。雷文繋ぎ地に菊牡丹の大文の入る表紙。題簽左肩「和歌古語深秘抄 秘藏抄上 一」「和歌古語深秘抄 秘藏抄中 二」「和歌古語深秘抄 新撰備腦／莫傳抄／和歌肝要 三」「和歌古語深秘抄 後鳥羽院御口傳 定家和哥式 四」「和歌古語深秘抄 正風躰抄 秘藏抄下 五」「和歌古語深秘抄 家隆口傳 近來風躰抄 六」「和歌古語深秘抄 螢玉集 藤川上 七」「和歌古語深秘抄 八雲口傳 よるのつる 八」「和歌古語深秘抄 耕雲口傳 柱明抄 九」「和歌古語深秘抄 八雲一言記／和歌二言集／同用意 十」。内題無し。目録題「和歌古語深秘抄」。柱刻 卷一「序 (丁附)」「目録 (丁附)」「秘藏抄上 (丁附)」、卷二「秘藏抄中 (中終・下) (丁附)」、卷三「新撰 (丁附)」「莫傳 (丁附)」「肝要 (丁附)」、卷四「御口傳 (丁附)」「六部抄上 (丁附)」「六部抄」の初丁にのみ丁附の上に「和哥式」とある)、卷五「六部抄上 (中) (丁附)」「初丁は丁附の上に「一ヨリ」とあり、「六部抄中」は初丁にのみ丁附の上に「庭訓抄」とある)、卷六「家隆 (丁附)」「六部抄下 (丁附)」「六部抄下」丁附の上に「一ヨリ」、卷

七「瑩玉集」(丁附)「簸河上」(丁附)「簸河上」の二丁目のみ「河上」(丁附)、卷八「六部抄中(中終・下)」(丁附)「(初丁は丁附の上に「一ヨリ」とあり、「六部抄下」の初丁は丁附の上に「よるの鶴」とある)、卷九「耕」(丁附)「桂明抄」(丁附)、卷十「八雲一言記」(丁附)「二言集」(丁附)「和哥用意(丁附)」。「片面一〇行。字高約一六・五。各巻の丁数は、二五(序、目録を含む)、二二、二八、二四、三七、三三、二三、三九、二七、四〇丁。十巻末に「……元禄十五<sup>壬午</sup>孟春日/出雲寺和泉掾開板」とある。

12 吉野一覽記 縦二四・六×全長二二〇 写一軸

ヨ1  
91

歌文紀行。飛鳥井雅章著。表紙は金欄千歳綠色地に牡丹唐草模様。縦二四・六×横二二・五。見返しは金箔地に銀箔ちらし。本文料紙は斐紙、唐草繫文様の下絵。外題内題ともなし。箱入。箱の上書に「飛鳥井雅章卿吉野一覽記一卷」とあり、古筆了意と了保の極札を付す。奥書は「右応或人之所望書以与之者也 明曆第三暮春中旬(花押)」とある。

一般に「吉(芳)野紀行」として知られるが、多く他の作品と合写されたり叢書に収録されるなどしてかなり流布したものと思われ、版本も二種(一種は単独、一種は『和歌伊勢海』に収録)現存する。雅章(延宝七年(一六七九)薨六十九歳)は後水尾院時代の代表的な堂上歌人であり、能書家としても知られる。本書の奥書にもあるが、乞われて幾度か自身浄書して与えたらしく、すでに自筆が二本(一本吉田幸一博士蔵、一本東洋大学図書館蔵)存する。内、吉田本は「有島の記」を含む特異な本文で、東洋大本は流布本系統である。本書も極札はともかく筆跡から推しても自筆とみてよく、東洋大本に非常に近い流布本系統の本文である。さらに言えば、二本の自筆写本の他に少なくとも三本は自筆写本が存したであろうと推定されており(「国文学研究資料館紀要」七号「芳野紀行」の解説参照)、本書はその三本とは別のものと思われる。内容は一泊二日の行程での吉野花見旅行記であ

る。旅行は承応三年三月十七日と推定されるが、本書はその三年後に浄書されたものである。

13 無言抄 縦二八・二×横二一・〇 刊一冊

夕3  
4

連歌論。応其編。古活字版。上・中巻欠。白色地に桜花樹の雲母刷り表紙。題簽無し（表紙中央上部に縦七・八×横二・六の跡がある）。内題無し。尾題無し。柱刻無し。七六丁。行数一一行。字高約二二・二糎。一行約一八字。跋文により天正七年から二年余を経て記し、天正十四年孟冬紹巴の披見に入れ、数度の訂正を行い慶長二年に完成したことが知られる。慶長三年二月廿五日の法眼紹巴の跋文のあとに「此無言抄之作意者両奥書在之不慮被成 叡覽御感不斜故写留之任 / 勅定染筆者也 / 慶長三年 二品親王 / 空性御判 / 此無言抄之外題者被染 / 勅筆 并大覚寺殿 二品親王御奥書也 / 一覽之次上人依所望記之而已 / 慶長四年神無月 上旬 / 法眼紹巴印判」の跋文がある。

14 寛佐 縦一三・三×横二〇・六 写二冊

夕3  
3

連歌。辞書。紺地に卍繋ぎ唐草押型文様の鳥の子の表紙。題簽中央、打曇り紙に「寛佐 甲(乙)」と墨書。内題、尾題無し。丁数は甲一一五、乙一〇二丁。片面一〇〇一行。本書は所謂「いろは新式」の一本。本文の系統は京都大学国文学研究室蔵（真如蔵旧本）『異本色葉新式』に近いが、少なくともその二次増補本に相当するとの指摘がある。即ち、京大本にほぼ共通する部分が原型で、それと、昌琢講説の寛佐聞書（寛永九・八・二十七、同十・七・十九他）、および紹巴・昌叱・玄仍・昌琢・昌程等の諸説からなる。最終項「す」の中ほどに記された、「寛佐法印以自筆一校斗 / 寛永七年正月廿日」なる奥書は、この段階で付されたものであり、原本が寛佐系の「いろは新式」であることを意味する。各項末尾に書き加えられた昌程講説寛佐聞書等の部分が第一次増補分、さらに筆をかえて朱で追加されたのが第二増補分である。



15 阿羅野 縦二二・〇×横一五・四 刊三冊

俳諧撰集。荷兮編。元禄二年桃青序。菊花繋ぎ空押模様茶色表紙。題簽中央無辺「阿羅野上」「菴蘿野下」「あら  
の員外」。内題上巻曠野集卷之一（五）、中巻「荒野集卷之六」「曠野集卷之七（八）」、下巻「曠野集員外」。目  
録題「荒野集目錄」。柱刻「あ上」「あ下」「あ」。下部に丁付。序九行、本文八行。序末に「元禄二年弥生芭蕉桃  
青」。刊記「京寺町通二条上ル町井筒屋／筒井庄兵衛板」。印記「牘庫風露文庫」。俳諧七部集の一。「冬の日」「春の  
日」に次ぐ第三集。上・中を八巻に分ち、発句七三五句を収め、下巻員外に連歌十巻を収める。

16 枯尾花 縦二二・八×横一六・二 刊二冊

俳諧撰集。其角編。菊花繋ぎ艶出し縹色表紙。題簽中央無辺「枯尾華上（下）」。柱刻「枯尾上（下）」（上巻二  
〇丁まで上の字なし）、下部に丁付あり。上巻二七丁、下巻三六丁。刊記「書林／井筒屋庄兵衛／橋屋治兵衛／板  
行」。内容は芭蕉の追悼集。上巻は其角の「芭蕉翁終焉記」を巻頭に置き、「元禄七年十月十八日於義仲寺追善の俳  
諧」四十三吟百韻一卷、門人の追悼句百十六句、下巻には嵐雪の墓参文を巻頭に、十月二十二日の歌仙二、二十三  
日の歌仙二、及び追善の句若干、十一月十二日初月忌丸山量阿弥亭での百韻一卷、追加の歌仙一卷と追加吟若干を  
収める。芭蕉の伝記資料として重視されている作である。

17 芭蕉句選 縦二二・五×横一六・一 刊二冊

俳諧句集。縹色表紙。中央に無辺白地の題簽「芭蕉句選上（下）」（但し上巻は芭の字破れ）。内題等なし。柱刻  
「句選上（下）（丁付）」。上三〇丁（うち、序三丁、凡例二丁）、下二九丁。本文四周無辺。序八行、本文一〇行。  
序文は擲筆庵華雀の自序。刊記は「元文四己未年／二月下旬／芭蕉翁井門人／俳諧書林／京寺町二十条上ル町／井  
筒屋庄兵衛／同字兵衛團」。印記「大西甚一平藏」「大西藏書」他。この書は板行された芭蕉句集中、最もまとま

った最初の書と云われ、四季別で、雑を巻末に添え、上欄に『泊船集』『笈の小文』『阿羅野』等の校異を記した部分もある。本書は四季の題は大概玉海集の次等に擬ふ旨の凡例を持つ再板本である。

18 口合草結 縦二二・四×横一五・六 刊一冊

ナ3  
53

雑俳。花蝶編。縹色布目表紙。題簽後補左肩墨書「草結び口合」。内題、尾題等なし。序末に「雉下鶴南翁圖」、跋末に「ナニハ遊樂齊花蝶」。柱刻「●」下部に丁付あり。丁数四四丁、巻末に「菊英館藏板目錄拔書」二丁を付す。後見返に「穿當珍話」「口合手引草」の出版広告の後に刊記あり、「安永十年辛丑正月吉日 京都書林寺町三条上ル町菊屋安兵衛」。内容は、省私館、梅亭の兩人が撰んだ口合の高判集で、神祇、尺教、恋、無常賦五行、降物、夜分、植物、生類、名所古跡、山類、水辺、人倫、商人職人、百姓之部曆之部、居所市立、絹布、諸道具、喰類、たとへ、細工物、音曲、五色諸言子供遊び目出物遊興事、以上の題詠句を収め、無題の句を巻末に添え、巻頭には「口合心得の事」等の口合法則を掲げている。

19 伊勢物語 縦二一・二×横一七・四 写一冊

サ4  
37

歌物語。紺表紙。綴葉装。内題、尾題無し。料紙斐紙。本文墨附八三丁、その後に「抑伊勢物語根源古人説々不同……先年所書之本為人被借失仍／為備證本（カ）重所校合也／戸部尚書在判」（84オ〜85オ）「近代以狩使事為端之本出来……只可翫詞義言葉而已／戸部尚書在判」（86オ）の奥書があり、次に（87オ〜89ウ）業平、行平、紀有常、二條后、河原左大臣融の略伝を記す。全八九丁。片面九行（奥書「抑伊勢物語……」の部分は八行）、一行一八字前後。各段のはじめを示す鈎点、句読点、濁点、訓など、全体にわたり朱が施されている。略伝の末尾に「墨付 九拾枚（紹巴之伝ハスミ）三條ハ朱 正澄同朱／細シ」と記す小札（一一・四×一・五）を貼付するが、本文に墨筆の書入れは少ない。後に遊び紙二丁。一二五段本。

20 栄花物語 縦一五・七×横一〇・七 刊二十一冊

サ4  
39

10

歴史物語。流水と草花を描く紺表紙。題簽中央「栄花物語月のえん」一（ぬの引のたぎ）（むらさき野）廿終。「栄花物語惣目録并系図」。内題、尾題無し。匡郭四周单边。縦一一・五×横八・七（卷一初丁表）。柱刻「一（〜四十）（丁附）」。別冊の「惣目録并系図」は目録の部分にのみ「目録 一（〜三終）」の柱刻がある。本文は二十冊四十巻で片面一一行。各巻の丁数はそれぞれ、五八、四二、三三、四八、一六、三一、八六、二一、三一、三九、三二、二七、三二、四八、二七、二〇、一九、一〇、一九、一一、一六、二二、二七、三八、五一、二〇、三一、二九、三〇、二六、一八、二四、五、五四、一七、二八、三五、一五。「惣目録并系図」は一八丁。巻末に「本云／斯栄花物語 赤染衛門述作／なり尤至宝なる物なるへし／このころ数本をもて比較するに展／転模写のあやまりに損落の文字／前後の錯簡是非をわきまへかた／き處々本書に考合清書せしめ畢／明曆第二丙季暮秋吉旦／洛陽今出川林和泉掾板行」とある。「駿河台佐々木蔵書印」の朱印あり。

21 平家物語 縦二七・二×横二〇・一 写二十冊

夕4  
42

軍記物語。水色表紙。題簽左肩「平家物語第二（四〜十八・二十）」（右下に朱で「長門本」と記す。巻一・三・十九は題簽欠）。と墨書。内題「平家物語卷第一（〜十、十三、十四、十六〜二十）」「平家物語第十一巻」「平家物語第十二」（卷十五は内題無し）。尾題は卷十六にのみ「平家物語卷第十六」とある。行数八行。一行一八字前後。各巻の丁数は各々墨付、一二八、一二〇、八一、七四、八三、五九、九九、八七、五六、一〇九、五六、一〇二、八三、一一九、一一三、一二五、一二三、九八、七九、六〇丁。小口「長門本平家物語」。第二十巻の末に「平家物語者長州文司関阿弥陀寺之／什物而不知何人著述希代之古書也／然近来偶流布於人間中予多年／懇望之処乞得榊原氏子宿公子之蔵書／写于潮月楼于時安永三甲午歳自三月／十五日至五月十一日書写 布引山人 源高敬」とある。朱

による訂正などあり。目録について伊藤家本と比較すると伊藤家本と同様、卷一、六、九、十一、十三の目録を欠き、卷五の「目録」の順序と本文とが合わない点も全く一致する。卷十六は目録に「平家頸獄門被懸事」を欠くが本文は存し、卷二十、伊藤家本目録に順序の誤りがあるが、本書は正しい。

22 徒然草 縦二七×横一四・五 刊二冊

夕5  
118

隨筆。嵯峨本覆刻の整版。縹色無地後装表紙。左肩に打曇の題簽を貼り「つれづれ草 始終」と墨書。本文、各半丁一〇行一七、八字前後。無郭、字高二一・六。片仮名でルビを振り、句点を加える。上卷九四丁、下卷七七丁、ただし上下巻とも終丁ウに印刷なし。各丁ウのノドに丁付があるらしいが、綴じ込まれていて不明。各段はじめに朱の合点をかけるほか、朱墨二色で読み仮名を主に書込みあり。虫損甚し。印記、卷首に「雲出鳥還処所蔵」、卷末に印文不詳印一顆、いずれも朱文。春日政治氏旧蔵。「つれづれ草」は古活字版で嵯峨本、烏丸本などあるが、整版としてはこの版が最初。通説では上巻末の余白に「杉田良菴玄与開版」と刊記を加えたものを最初とするが、刊記が入木であること、位置の尋常でないこと、杉田良菴が求版を盛んに行っていたこと（山田忠雄氏『元和三年版下学集』昭43 新生社 85ページを見よ）等から、通説を非とする。

23 撰集抄 縦二七・九×横一八・四 刊三冊

夕4  
21

説話集。黒色表紙。外題なし。内題「撰集抄卷一（〜九）」（卷一、四、七の内題のみ各冊巻頭にあり、他の巻の内題は本文中にあり）。尾題「撰集抄卷第三（九）終」「西行記中終」。柱刻「上（〜下）（丁付）」。上卷三六丁、中卷三九丁（第二十七丁欠、本来四〇丁）、下卷三〇丁（第十六丁欠、本来三二丁）。行数一二行。字高二一・〇。刊記なし。古活字版。『増補古活字版之研究』の図録に比すると、第三種本（イ）版の松井本と同版と認定されるが、本書には墨書による濁点、句読、当漢字などの書き入れが若干あり、特に濁点の書き入れは本来ある濁点との区別



が難しい。印記は「小汀文庫」「園林文庫」「畠山爽」「古桑文庫」。

24 可笑記 縦二七・四×一八・〇 刊五冊

ナ4  
323

仮名草子。雷文繋ぎ草花艶出し紺表紙。題簽左肩子持粹「可笑記一（〜五）」（卷三剥落）。序題「愚序」、内題「可笑記卷第一（〜五）」、尾題なし。柱刻「可笑一（〜五）（丁付）」。四周単辺二一・五×一六・〇。本文二二行。丁数卷一、四二丁、卷二、四四丁、卷三、三九丁、卷四、四三丁、卷五、六三丁。挿絵なし。五卷末に「于時寛永十三／孟陽中韓江城之旅泊身筆作也」。刊記なし。印記「漣山人の」「木屋町三条上ル 大棟」。

25 可笑記跡追 縦二二・七×一六・二 刊二冊

ナ4  
326

仮名草子。菊花繋ぎ空押模様茶色表紙。題簽左肩子持粹「可笑記跡追乾（坤）」（虫損のため可の字読めず）。序題「可笑記再改板序」「可笑記跡追序」。目録題「善惡物語目録卷之壹（同卷之二〜五）。内題「善惡物語（上之二、上之三）」「善惡物語下の卷（下之式）」（上之三、下之ニルビ有り）。柱「上之一（〜三）（丁付）」「下之一（二）（丁付）」。匡郭四周単辺一九・〇×一四・四。行数、再改板序八行、跡追序及び本文九行。丁数（卷一）一七丁（一〜十七）、（卷二）二四丁（一〜廿四）、（卷三）一六丁（一〜十六）、（卷四）二三丁（一〜廿三）、（卷五）二二丁（一〜廿一）。再改板序末に「天明三卯年春三月」（2才）、「撰陽炭屋町 川崎屋市兵衛／老衰除髮改名 石川円次／謹識」。挿絵なし。刊記なし。「仮名草子集」（『近世文芸叢刊』2）の解説によれば、本書には寛文十二年刊の『可笑記跡追』、内題を「善惡物語」と改め刊記の一部を削った後刷本、正徳五年刊の『諸人教訓』、天明三年再改板序の『可笑記善惡物語』の四種が知られており、「天明三年の『可笑記善惡物語』は諸人教訓の板木を使はず、それ以前の『可笑記跡追』の版本に拠って、新たに版下を書いたのである。漢字を仮名に改めることあり、振仮名を多く加へるなど、読者への奉仕にとめてあるが、清濁振仮名を誤ること多く、甚だ浅学の手になるやうである」と記して

いる。『可笑記善悪物語』は後補書題簽で、序末に切取りがあるが、本書は完全な形をとどめている。

26 世間胸算用 縦二五・九×横一七・二 刊五冊

ナ4  
324

浮世草子。井原西鶴著。黄土色表紙。題簽左肩子持、ほとんど破れて見え、角書「新板絵入」「世間胸算用 大晦日は一日千金」とかろうじて判読しうる。内題「胸算用大晦日は一日千金巻一（〜五）」尾題なし。各巻巻頭に目録一丁

を置く。序六行、本文一〇行。四周单边一八・八×一三・八。柱刻「胸算用」（下部に巻数と丁付あり）。挿絵あり。刊記「元禄十二巳卯年八月吉旦／書肆／大坂本町壹丁目／萬屋彦太郎板」。

27 商人軍配記 縦二五・五×横一八・一 刊五冊

ナ4  
329

浮世草子。江島其積著。縹色布表紙。題簽左肩子持出「商人軍配記一（〜五）」内題「商人軍配記卷之一（〜五）」尾題「世渡軍配記一（三）之巻終」「世渡軍配記卷之二（四）終」（巻一ルビ「よわたりぐんばいき」）。

柱刻「世渡一（〜五）之巻」。巻末に「大和絵師川嶋信清筆瀧」。丁数二〇、一八、二〇、一五、一四。刊記は見返

しに「三都発行書肆江戸芝神明前岡田屋嘉七同浅草芽町二丁目須原屋伊八同日本橋二丁目山城屋佐兵衛同書丁目須原屋茂兵衛京寺町

松原下ル勝村治右エ門大阪心齋橋通壹丁目秋田屋太右エ門」。正徳二年刊の「商人軍配記」の改題本であるが、本書には江

陵山人の序は付いていない。

28 絵本若草山 縦二四・八×一七・八 刊一冊

ヤ8  
66

絵本。香色地に緑色刷毛目、金砂子散し表紙。題簽左肩子持新板絵本若草山。見返に「絵本若草山西川祐信画」。

序題「絵本若草山序」。序末に「延享二年丑正月吉日 深蔵」。内題柱刻等なし。ノドに丁付あり。丁数三二丁。

刊記「延享二歳巳丑正月吉日 洛陽画工文華堂西川自得叟祐信印／彫刻師洛陽新シ町四条上ル町堺屋治左衛門東都鱗形屋

孫兵衛／京都菊屋喜兵衛／京都寺町通松原通上ル町菱屋治兵衛版」。初版は三冊本であるが、本書は合一冊の後刷本であ

る。内容は四季折々の遊びの絵に、それを見立てた言葉を付す。

29 続沙石集 二六・二×一八・一 刊三冊

ナ4  
332

仏教説話集。南冥著。六卷三冊。改装縹色表紙。題簽左肩子持粹「続沙石集二(三)」(第三冊目剥落。巻数はずれる)。内題「続沙石集巻之一(五下、六)」、目録題「続沙石集巻之一(五下、六大尾)」(巻五に之の字なし)、序題「続沙石集序」、柱刻「続沙石集一(五下、六)」。刊記「延享元甲子歳八月吉日/皇都寺町通五条橋詰町書林藤屋武兵衛版」。内題下に「湖東駒井光闡寺 南冥著」とある。もともと七冊本(六冊本もあり)であったものを改装したもの。所収説話六十二話。「三国伝記」その他の仏教説話集などの古典に材を求めたものが多い。単に教誡の書であるのみならず、説教の材料になることをも意図していると云われる。

30 和莊兵衛 縦二三・〇×一五・八 刊四冊

ナ4  
307

滑稽本。遊谷子著。紺表紙。題簽左肩子持粹「異國奇談」和莊兵衛和(莊、兵、衛)。内題「異國奇談」和莊兵衛巻一(四)」。序題「異國奇談」和莊兵衛叙(第一序)、「序」(第二序)。尾題「異國奇談」和莊兵衛巻一(三、四終)」。柱刻「和莊兵衛一(四)(丁付)」。本文四周单边一八・九×一二・七。序、二つ共八行、本文一〇行。挿絵入り。序末「秦川散人醉書印」(第一序)、「安永三甲午初春吉日 南阿 遊谷子艸印」(第二序)。刊記「安永三甲午年正月吉日 三都書林江戸本石町十軒店 山崎金兵衛 大坂心齋橋安堂寺町 大野木市兵衛 京寺町通錦小路上ル町 錢屋利兵衛板。宝曆十三年刊の「風流志道軒伝」に構想を得たもので、長崎の商人四海屋和莊兵衛が異國を遍歴する話。後編四巻が安永八年に刊行された。

31 蟬丸 縦二三・八×横一八・一 刊一冊

タ7  
16

謡曲。嵯峨本。水色地に藤巴模様の雲母刷り表紙。綴葉装。題簽左肩「せみまる」。本文料紙は胡粉引厚様の斐紙。丁数一五丁、片面七行、一三字。朱による傍訓、濁点等がある。古名『逆髪』。『申楽談義』に世阿弥が演じた

記事があり、世阿弥作の可能性が高いとされる。

32 通小町 縦二四・〇×横一七・六 写一冊

夕7  
14

謡曲。浅縹色地に金で雲霞・遠山樹木他を描く楮紙の表紙。綴葉装。題簽左肩「かよひ小町」。本文料紙斐紙。薄く雲母を引く。見返しは金の霞引き。墨附八丁。片面七行。一行一六字前後。奥に「此本者黒雪齋章本書写之／清書相究致進上候／寛永五 石田友雪齋／八月廿二日 安公（花押）／金子十郎左衛門殿」とある。石田友雪齋安公は『元和卯月本』との関連で論じられており、彼の節付した謡本も多数残されている。

33 能の本 縦一七・二×横一二・七 写一冊

夕7  
15

謡曲。綴葉装。紺表紙。題簽左肩、朱色地に「かも あしかり／ゆや／うとう みわ」と墨書。料紙斐楮交漉き。片面六行。字数一一字前後。墨付八六丁。印記「安利」。うしろ見返しに「主元俊」と墨書。朱により間拍子の書入れがある。下掛りの写本。

34 仕舞付百番 七太夫流 縦二七・〇×横一九・二 刊二十冊

夕7  
17

謡曲。卍繋ぎ地牡丹唐草艶出しの焦茶色表紙。題簽左肩。子持枠内に「仕舞付百番七太夫流」。各冊表紙中央上部の四周単辺の枠内に「高砂／忠度／東北／三井寺／猩々」の如く、収める曲名を記した紙を貼付する（小口にも「高・忠・東・三井・猩」の如く墨書）。内題無し。尾題無し。版心も「高砂（丁附）」「忠度（丁附）」「東北（丁附）」「三井寺（丁附）」「猩々（丁附）」の如し。匡郭四周単辺。縦二一・七×横一六・一。全二十冊各冊の丁数は、五七、五〇、五八、五七、五一、六三、四八、六二、五五、五四、五三、四八、六一、六八、五七、六二、五九、四九、五八、五九丁。本文七行。仕舞付を頭注する。第十四冊目以外、各冊裏見返しに「一太夫衣装付一脇仕方并衣装付同セリフ／一舞台図并作物置所一狂言間セリフ／一笛頭付小鼓同大鼓同太鼓同／右下カゝリ百番者七太夫嫡傳之仕舞付



／秘密大事悉書加之令板行者也／万治元年戊戌臘月中旬／洛陽今出川書堂林和泉」とある。林和泉の下に「時／元」の陰刻あり。

35 太鼓頭附謡 縦二二・四×横一六・三 刊二冊

タ7 13

部分謡。縹色表紙。題簽中央「太鼓頭附謡 上(下)」。内題・尾題ナシ。遊び紙二丁。はじめに「謡目録百三十番」が四丁分あり「高砂」以下「猩々」に至る一三〇曲(上卷六二、下卷六八)の曲名と何丁目にあるかを記す。目録・本文とも片面六行。柱刻は丁附のみで「目一(四)」「二(十六)」とあり、本文二一六丁まで上下通して附されている。上・下とも同じ奥付「右此謡百三十番者為太鼓頭／附而鏤之也然今所以不記頭／依有家々區別此欲使學者臨師席乎記之而已／于時貞享四丁卯歲霜月日／京寺町五条橋詰町梅村彌右衛門版」がある。本書には朱による書入れが多く、又別に朱による一冊の写本を付す。縹色表紙、縦二一・五×横一五・二。「山婆カケリ働トモ」「色絵」「早笛」などの記載が九・五丁分。

36 地藏之御本地 縦一九・五×横一三・九 刊一冊

ナ7 13

古浄瑠璃。六段本。藤色無地の表紙。左に「宝永板／あたごせうぐん地藏本地」と墨書。内題「地藏之御本地」。所屬、太夫名なし。匡郭四周単辺。縦一六・二×横一二・二。柱刻「地藏(丁附)」「(丁附に不明な箇所多し)」。丁数、一二丁。片面一七行。一行四十五字前後。挿絵六丁分(見開き三図)。刊記、終丁裏の本文末に「右大夫直正本也」とあり、その下半分が空白となっている。或は板元名が削りとられたか。東北大学図書館蔵本(寛文頃刊、平正信正本、板木屋彦右衛門板)との比較により、挿絵は本来全七図で、そのうち三図のみを残し、四図を除いた箇所版心のごとく板木接合の跡があることが指摘されている。

37 動稚高麗責 縦二二・六×横一六・七 刊一冊

ナ7 14

古浄瑠璃。五段本。薄い緑の地に草色で唐草・花枝文の入る改装表紙。題簽左肩「動雅高麗責」と墨書。内題「ゆりわかからし動雅高麗責」の下に土佐□正本」とある。柱刻「かうらい 三(〽十五)」（十六丁目は表のみ存し、柱刻は確められない）。匡郭四周单边。縦二〇・一×横一四・八。片面一七行。全一四丁。巻末に「二條通寺町西へ入北側山本九兵衛」とあり、その下は破損している。「十行三十二丁」と、別版ではあるが同様の刊記を持つ『動雅高麗責』は「：山本九兵衛板行」とあり、本文初行に「土佐掾正本」、奥に「山本土佐掾」とあり、初段に「あま人名所づくし」なる別行がある由。本書の丁附が「三」からはじまる所と関係があるとするれば、本書にも「あま人名所づくし」があったか。なお本書の匡郭は各丁すべて柱との接点でずれを生じている。

38 大般若波羅蜜多經 縦二六・四×全長八一七 刊一軸

ヨ2  
43

仏典。春日版。茶色表紙。本文料紙はきはだ染の斐楮交漉。全一七紙。外題「大般若經卷第二百五十六」、その下にずっと離れて「四」と墨書。内題「大般若波羅蜜多經卷第二百五十六」。次行に「初分難信解品第三十四之七十五 三藏法師玄奘奉 詔譯」とある。尾題「大般若波羅蜜多經卷第二百五十六」。一行一七字。朱による読点が入る。奥に「一校了」とある。

39 仏説象頭精舎經 縦二七・七×横九・五 折本一帖

ヤ4  
21

仏書。元和三年古活字版。紺色無地の原表紙。左肩に題簽を貼って「象頭精舎經」と墨書。巻首題「仏説象頭精舎經 敢」。本文、無郭、字高二一・四。一丁約四五センチほどの用紙一枚に印刷。各一丁二三行一七字、別に右端に小字で「象頭精舎經 第〇張 敢」と刻するが、その部分、糊しろに用いられて隠れる。刊記「丁巳歳日本国大蔵都監奉／勅雕造」。北野経王堂で伊勢常明寺の僧宗存の刊行した大蔵経の一部で、いわゆる宗存版。これに類する刊記が『仏臨涅槃記法住経』（慶長一九宗存刊）にもあり、高麗の大蔵経に倣ったもの、という（和田万吉

氏『古活字本研究資料』。巻頭に双郭朱文の「平等心王院」の印記あり。平等心王院は洛北槇尾の名刹、今は西明寺を称する。なお北野経王堂における出版については、是沢恭三氏「常明寺宗存の出版事業」(『書誌学月報』17号、昭59・10)参照。

40 往生要集鈔 縦二八・二×横一九・八 刊四冊

ヤ4  
32

仏書。古活字版(叡山版)。良忠著。褐色表紙。左肩に墨筆で「往生要集鈔 一(一四)」、右肩に朱で「月」と記す。各冊はじめに目録一丁を置く。内題「往生要集卷上鈔第一(三・四)」、「往生要集卷上鈔第二」、「往生要集卷中(下)抄第一」、「往生要集卷中(下)鈔第二」。尾題「往生要集卷上鈔第一(一三)」、「往生要集卷上抄第四」、「往生要集卷中鈔第一(二)」、「往生要集卷下抄第一」、「往生要集卷下鈔第二」。各冊目録の部分の柱刻は、「要集料文上(中・下) 一」とあり、本文の部分の柱刻は「要集抄上一(一四)(丁附)」、「要集抄中(下)(丁附)」。匡郭四周单边二三・一×一六・一。片面二一行、一行約二〇字。第四冊最終丁「此集具書事」の後に「于時寛永三丙曆閏四月吉日刊摺之畢」とある。印記「岡田真之蔵書」。著者良忠は正治六年(一一二〇四)に生れ弘安十年(一一二八七)寂。鎌倉光明寺の開山。著書多し。

41 浄土三部経音義 縦二八・四×横二〇・二 刊二冊

ヤ4  
33

浄土三部経の釈義音義書。珠光著。栗皮色表紙。空色の題簽が左肩にあり「浄土三部経礼讚音義上(下)」と墨書する。内題「浄土三部経礼讚音義卷上(下)」。尾題無し。丁数は上巻四二丁(内、序二丁、綱目一丁)、下巻四二丁(内、綱目一丁)。片面七行。無界。字高約二〇・八。丁附は各丁裏の喉の部分にあり、序、本文通し。下巻の初丁の丁附のみ、表の喉の部分に「四」とある。丁付の位置(表裏)の相異の意味するところは不明だが、四丁目ということであれば上巻の綱目(三丁目)の次に入ることになる。書籍目録類に一冊或は二冊として刊行されて

おり原型がどちらか不詳。上・下巻とも表紙見返しに「清澤」の陰刻墨印と「本泉寺」の墨印あり。

42 倭玉篇 縦二七・〇×横二〇・一 刊三冊

マ3 13

辞書。焦茶色表紙。目録題「倭玉篇卷上(中・下)」と陰刻。内題「倭玉篇卷上(中)」。尾題「倭玉篇卷上(中・下)終」。柱刻「玉上(中・下)(丁附)」。匡郭子持枠。縦二二・二×横一八・二(上巻初丁表)。有界九行八段配字。丁数 上巻四四丁、中巻四七丁、下巻四三丁。下巻末に「寛永九<sup>壬</sup>年孟夏上澣開板焉」とある。後見返しに「于時寛永十一曆八月吉祥日」と墨書し、「和州金剛山」以下を墨で消してある。寛永九年版に八行八段で「寛永九年壬申三月 中野市右衛門刊行」の刊記を持つ本もある。

43 下学集 縦二七・一×横一九・八 刊二冊

マ3 11

辞書。茶色表紙(改装)。序題「下学集序」目録題「下学集目錄 凡十八門」「下学集卷之下」。内題「下学集卷之上(下)」。尾題「下学集卷之上終」「下学集終」。柱刻、上巻一〇丁分程破損して読めないが「下学之上(下)(丁附)」であろう。匡郭四周单边。縦二三・四×横一六・四(上巻初丁表)。上巻三一丁。下巻四九丁。片面七行。一行一八字。刊記は下巻終丁裏の七行目に「元和三年丁巳孟夏吉日梓焉」とある。刊記の位置と上巻尾題を存する所から、山田忠雄氏分類のB類に近いものである。

44 狂雲集 縦二六・五×横一九・〇 刊二冊

タ8 1

漢詩集。一休宗純著。栗皮色表紙。題簽、左肩に剝落の跡あり。墨で直に「狂雲集乾(坤)」と記す。内題「狂雲集上(下)」、尾題「狂雲集上」「狂雲集下終」。柱刻「狂雲集上(下)」上巻初四丁に「上」の字なし。下部に丁付。上三三丁、下三六丁。刊記三十六丁裏中央子持枠の中に「寛永壬午孟春吉日／西村又左衛門新刊」と大字で記す。この寛永一九年版に書肆の部分「河南四郎右衛門」と入木した後印本もある。巻末に「天澤七世東海狂雲老

納純一休」と記す。一休宗純作の七言絶句その他倡偈を収める。印記「玉生川本源寺蔵」「大河原蔵書」。

45 中華若木詩抄 縦二七・〇×横一八・六 刊三冊

ナ8  
29

漢詩。如月寿印が中国人と日本人の七言絶句に仮名抄を付したものの。表紙は濃い縹色。題簽左肩「若木詩上」「新板」中華若木（中巻無し）。内題「中華若木詩抄巻之上（中・下）東山如月和尚註」。尾題「中華若木詩抄巻之上（中・下終）」。柱刻「若木詩抄巻上（中・下）（丁附）」。匡郭子持梓。縦二一・五×横一五・七。本文二七行。丁数 上巻五一丁、中巻五四丁、下巻五二丁。巻末、子持梓内に「寛永癸酉仲秋吉旦／豊雪齋道伴新菜行」とある。印記「風雪荘文庫印」「鹿野山人」。

46 鎌倉將軍記 縦二六・三×横一七・二 刊五冊

ヤ2  
67

史書。桐に蔓草空押柿色表紙。題簽左肩子持倉將軍記一（五）（但、角書・巻数は墨書）。内題「本朝將軍記一（五）」、柱刻「將軍記一（五）」。刊記なし。本文二一行、絵入。鎌倉將軍九代の略伝を記したもので、巻一頼朝、巻二頼家、巻三実朝、巻四頼経、頼嗣、巻五宗尊親王、惟康親王、久明親王、守邦親王となっている。

47 和名集并異名製劑記 縦一三・一×横一九・五 刊一冊

ヤ9  
70

薬物。紺表紙。題簽左肩「和名集」（角書があるようだが不鮮明）。内題「和名集わみやうしゆ并いみやうせいざい異名製劑記巻上（下）」。尾題「和名集上巻終」「和名下巻終」。柱刻「わ上（丁附）」「ワ下（丁附）」。匡郭四周単辺。縦一一・四×横一七・一。上巻二八丁。下巻三一丁。片面一七行。一行一六字前後。下巻末に「此和名集并異名製劑記之板本／近代往々雖在之其誤繁多也故／今改字證平仮名直令開板畢尤／可為正本者也／寛文十一歳／亥五月吉日」とあり、尾題の下の枠内に「松會開板」とある。薬物の名を「いろは」順に排列し、その下に異名・製法を記したものを。上巻に「く」までを収め、下巻「す」の後に「金石部」「草之部」「木部」「人部」「鳥獸部」「虫之部」「六陳」「八新」「十

八反」「銅鐵をいむ葉」「火を忌葉」「雷公葉性論炮製」の部をたてて解説する。

48 南都名所集 縦二七・二×横一九・三 刊十冊

ヤ6  
47

地誌。大田叙親・村井道弘著。墨色表紙。題簽左肩「南都名所集 一(一上)」(但し卷一、「南」の字を損す)。

目録題「南都名所集卷第一(一十)」(但し卷二は目録一丁欠)。尾題無し。挿絵の部分にのみ四周単辺の匡郭がある。縦二一・六×横一六・四(卷一の五丁表)。柱刻 卷一は「奈良一(一四)」、「一之卷 五(又五)」、「奈良一六(一十七)」、「奈良 十八」「奈良一 十九(一三十五終)」、卷二は「三卷 一(一三十二終)」、卷三「三卷 目録(一二十三終)」、卷四「四卷 (不記) (一二十終)」(目録の部分に丁附を施していない。以下同) 卷五「五卷 (不記) (一十七終)」、卷六「奈良六 一(一十七)」、「六卷 十八終」、卷七「奈良七 (不記) (一二十九終)」、卷八「奈良八 一(一十六終)」、卷九「奈良九 一(一廿一終)」(但し十四丁目を「十六」と誤刻)、卷十「奈良十 (不記) (一二十九)」、二十丁目は「奈良十」に当たるところを彫り残し、丁附は「十七」、以後「奈良十 二十一」「奈良十 廿一(一廿五)」(最終丁、柱刻なし)。十卷十冊で各巻の丁数はそれぞれ、三六(序文二、目録一を含む)、三二(目録欠)、二四(目録一丁を含む。以下同)、二一、一八、一八、二九、一六、二一、二七(13オは破損甚し)。行数、序文八行、本文二二行。挿絵は片面一一七図、見開き四図。延宝三年村井道弘の序文がある。印記「亀山須田頼胤藏書」の墨印。本書は見開き図がきわめて少なく、卷一の五丁表裏など本来見開きとなつて然るべきものが表裏になっていることなどから、出版に不馴れた人の手になるかとされる。

49 君臣図像 縦三四・〇×横二四・二 刊一冊

ラ4  
6

人物伝。古活字版。花紋唐草模様を織り出した茶金色絹表紙。上巻欠。内題、尾題無し。柱刻「君臣図像下(丁附)」。匡郭子持ち枠。縦二五・六×横一九・七(下巻初丁裏)。丁数、六一丁(六十丁目の楊亀山から六十五丁目



蔡西山までの六丁分、六十七丁目の眞西山の一丁分、合計七丁分欠。片面一〇〇一三行。一行一八〇二〇字（贊は一字下げ）。図像は各丁表。他本により上巻について略述すれば、成化二十三年聖賢図序、正統三年張洪力題、嘉靖四年李荇序で、目録により上巻四十名、下巻六十八名、合計百八名を収めたものであることが知られる。

### (三) 新規寄託資料（武者小路実光氏寄託資料）

50 柿本人麻呂像 縦六一・五×三四・七 写一幅

14 1

伝藤原信実筆。絹本着色。「昨夕は預御尋久々ニ而得貴意忝奉存候早々御帰残念ニ存候人丸之一軸吟味仕候処信実可為正筆候由将監も申候只今返進仕候猶尋貴面之時以上 壬八月廿八日」との土佐左兵衛の添状を付す。内箱の上蓋裏に「此一幅正徳四年五月三十日超嶽院實陰公灌頂御傳授之節從 靈元院法皇御拝領永可秘藏者也 實建」とある。武者小路實陰は寛文元年十一月一日生れ、元文三年九月三十日薨、超嶽院と号す。實建は文化七年二月三十日生れ、文久三年六月二十四日薨、五十四才。

51 柿本人麻呂像 縦九九・三×横四一・四 写一幅

14 2

円山応挙筆。絹本着色。「應舉謹寫」の款、「應舉」の朱文方印あり。

52 新六歌仙図 縦二七・二×全長一二五・四 写一軸

14 3

宗永筆。武者小路実陰賛。絹本着色。雷文繋ぎ地に梅花を織り出した鬱金色表紙。見返しは銀砂子散らし地に月と萩を描く。「後京極摂政／故郷のもとあらの／小萩さきしよりよなく庭の月そ／うつろふ」「大僧正慈鎮／我こ

ひは庭の／むら萩うら枯て／人をも身をも／秋の夕暮」 「皇太后宮大夫俊成／立かへり／またも／きてみむ／松嶋  
や／をしまの／とまや／波に／あらずな」 「権中納言定家／天の原／おもへは／かはる色も／なし／秋こそ／月の  
／光なり／けれ」 「従二位家隆／明は／また／こゆへき／山の／峯なれや／そら行／月の／末の／白雲」 「西行法師  
／をしなへてはなの／さかりに成にけり／山端／ことに／かかる／しら雲」 の六首に歌仙図を描く。「宗永図之」  
の下に「豊蔀」の落款あり。礼紙（金銀の霞引き地に金銀切箔、芒箔をしく）に「此一巻武者小路実陰朝臣筆を／  
くはへられしまゝうつしゑの／つたなきをもすこしはかくれぬ／へくやとこのよしいさゝかするし／侍るもの也／  
元禄四年／霜月日 右京大夫宗永」とある。

53 武者小路実陰懷紙 縦二〇・五×横四九・〇 写一幅

「實陰上／公宴御會始／梅香移柳」とあり「ふきとめてちらすな風の／梅かゝににほふ柳の／はなも今みむ」 「梅  
さきて花吹かせの／はつ蝶もうつる柳に／香をしたふらし」の二首をしるす。

54 武者小路実陰懷紙 縦三七・六×横四八・八 写一幅

「春日同詠幸逢太平代／和歌／従三位藤原實陰／なへて世にとりおさめ／てし梓弓八嶋／の外もなひくを／そ見  
る」。

55 武者小路実陰懷紙 縦四〇・一×横五九・五 写一幅

「春日同詠東風暖入簾／和歌／正二位藤原實陰／のとかにもかゝくる／こすの朝こちに雪／間もあかすむかふや  
／まかな」。

## 昭和59～60年度展示一覧

第23回常設展示 昭和59年4月23日(月)～6月23日(土) 国文学研究資料館  
和書のさまざま 展示室(以下同)

第24回常設展示 7月2日(月)～9月22日(土)  
源氏物語

第25回常設展示 10月8日(月)～10月24日(水) および  
11月19日(月)～12月15日(土)  
近世後期の文学

第14回特別展示 11月1日(木)～15日(木)  
蔵書印展

第26回常設展示 昭和60年1月16日(水)～3月23日(土)  
古典文学の参考図書

第27回常設展示 4月8日(月)～6月22日(土)  
古典文学の流れ

第28回常設展示 7月1日(月)～9月21日(土)  
名所と文学

第29回常設展示 10月1日(火)～10月24日(木) および  
11月20日(水)～12月26日(木)  
上代の文学

第15回特別展示 11月1日(金)～15日(金)  
新収資料展——昭和57～59年度期——

『国文学研究資料館特別展示目録』既刊一覧

〔1〕開館特別展示目録

- 国学者自筆稿本と奈良絵本を中心として（昭和52年度・第1回特別展示）
- 2 久松博士蔵歌論書及び本館蔵国学関係書（昭和52年度・第3回特別展示）  
を中心として
- 3 「古今集」初雁文庫を中心として（昭和53年度・第4回特別展示）
- 4 日本の絵本ならびに版本の挿絵（昭和54年度・第5回特別展示）
- 5 館蔵貴重書展（昭和55年度・第8回特別展示）
- 6 国学者自筆本と新収資料を中心として（昭和56年度・第10回特別展示）
- 7 新収資料展（昭和57年度・第11回特別展示）
- 8 中世歌論書展—久松家寄託資料—（昭和58年度・第13回特別展示）

国文学研究資料館特別展示目録 9

新収資料展 —昭和57～59年度期—

昭和六十年十一月一日 発行

編集 国文学研究資料館

整理閲覧部参考室

発行 国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町一—一六—一〇

TEL 〇三—七八五—七三—一

印刷・製本 株式会社 三協社

〒164 東京都中野区中央四—八一—九

TEL 〇三—三八三—七二—八一

ISBN4-87592-016-4